

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いを正しく生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。
- レンジフードファンの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります。
- レンジフードファンの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラスタ網など）と接触しないようにすること
漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります。
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配座をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。

注意

- 取り付けの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります。
- ファンや部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因となります。
- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります。

取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者が行う必要があります。
 - 大工工事【設置のための下地工事等】
 - 配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - 管工事【ダクト配管およびレンジフードファンからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別して行ってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理器具の幅はレンジフードファンの幅以内のものをご使用ください。また調理器具はレンジフードファンの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以上のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

製品は調理器具の真上に取り付けください。なお、製品取付高は、製品の下端が調理器具の真上 90cm 以上になるようにしてください。

レンジフードファン下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上で取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。

電源は専用のコンセントおよびブレーカを付けてください。火災・故障の原因となります。製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただくは、より優れた換気ができます。建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

注意

- レンジフードファン本体の取り付けは、十分強度のある取付面または補強板等に確実にすること
落下によりけがをすることがあります。壁材が薄く脆いことと振動音が発生することがあります。

お願

- レンジフードファン取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフードファン本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

- 取付面の強度確認
排気力を支える強さが必要です。製品質量 18.5kg
- 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理器具の上面から製品の下端まで 90cm です。
※ 火災予防条例で、グリッドフィルターの下端が調理器具の真上 80cm 以上必要となっています。
- 電源コンセント・ブレーカ
製品コンセント・ブレーカは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願

- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードファンが誤作動することがあります。

各部の名称

付属品

- 座付ねじ φ 5.1 × 45 (4 本)
本体の取り付けに使用します。
- 吊り金具 (2 個)
本体の取り付けに使用します。
- 排気口 (1 個)
本体に取り付け、排気ダクトとの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。
- ソフトテープ (1 本)
排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。

製品寸法図

(単位: mm)

1. 本体の準備

注意

- 製品取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります。

- 細包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、付属品一覧により不足がないか確認してください。
- 吊り金具を取り付けます。(図 1-1)
本体の天井に 2 本づつあらかじめ取り付けられているねじ 4 本を使用し、付属品の吊り金具 2 個を天井へ取り付けます。
お願
取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けると漏電した場合、発火したり感電することがあります。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事を行うこと
火災などの原因となります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になる所には取り付けないこと
火災・故障の原因となります。

注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと
感電および故障の原因となります（浴室用換気扇をお使いください）。

- 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。
- φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードファンの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）(図 2-1)

■ 上方排気の場合
■ 側方および後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）

3. 排気用部品の準備

- 上方排気の場合 (図 3-1)
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。本体に付いているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。取付方向は右図を参照してください。
- 側方および後方排気の場合 (図 3-2)
（別売の L 形ダクトを使用する場合）
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードファンを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けください。排気口は、L 形ダクトに付属の座付ねじ (M4 × 8) 4 本で L 形ダクトに取り付けください。本体への取り付けは、本体の取り付け後にを行います。（5. ダクトと排気用部品の接続）参照

お願

- 排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。誤った取り付けの場合、排気不良や異常音の原因となります。
- L 形ダクトを使用しない、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因となります。

正しい接続例 誤った接続例

4. 本体の取り付け

注意

- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります。
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります。

- 製品寸法図を参照し、付属の座付ねじ (φ 5.1 × 45) をねじ込みます。(図 4-1)
だるま穴位置 (2ヶ所) に座付ねじ (φ 5.1 × 45) を壁面との隙間 5mm まで締め付けてください。
- 本体を引っ掛け固定します。(図 4-2)
座付ねじに吊り金具のだるま穴を引っ掛けたあと、座付ねじ 2 本をしっかりと締め付けてください。

お願

- 上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願

- ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。(図 5-1)

- 上方排気の場合 (図 5-2)
風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) を行ってください。
- 側方排気および後方排気の場合 (図 5-3)
（別売の L 形ダクトを使用する場合）

- 排気口をダクトに接続します。
本体に付いているねじ 2 本を取りはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ 2 本で取り付けてください。
- 風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) を行ってください。
- 排気口設置面の漏風確認のお願 (図 5-4)
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（フード面等）が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）を行ってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置を行ってください。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります。
- 電気配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事を行うこと
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

- コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。アース接地位置は「製品寸法図」を参照ください。アース線は取付作業員側で手配してください。
- 電源プラグをコンセントに差し込み、ブレーカを「入」にします。

お願

- 電源は専用のコンセントおよびブレーカを付けてください。

7. 試運転

注意

- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと
けがのおそれがあります。

- 各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- 取り付けまたは施工上発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

【製造元】 -FUJIOH- 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754 (営業部)